

東京国立 博物館 ニュース

第679号
展示と催し物
案内

2-3◎特別展「仏像 一木にこめられた祈り」

4◎特別展「マーオリ 楽園の神々」

5◎特別展「悠久の美 中国国家博物館名品展」

6◎特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

7◎特集陳列「歿後百年 林忠正 コレクション ポール・ルヌアール展」より
「最年少の踊り子たち」

8-10◎特集陳列「古文書—歴史を語るメッセージ—」／特集陳列「猫」／

特集陳列「能装束の華—唐織—」／特集陳列「写楽」／
国宝 山越阿弥陀図／国宝 観楓図屏風など

11◎観覧料改定のお知らせ

12-13◎ようこそ! 博物館の舞台裏へ
中央監視室の一日

14◎INFORMATION

15◎TOPICS

16◎2006年10月・11月の展示・催し物

2006 1011 月号



仏像

一木にこめられた祈り

聖なる木に魂をこめた一木彫の世界。優れた造形と高い精神性で、わたしたちを魅了する一四六体から、とくに見どころとなる五体をご紹介します。

異国的な顔立ちと美しい肢体

国宝 菩薩半跏像(伝如意輪観音)

肉体とそれを覆う衣、そこにできる皺の関係を完璧に捉えた一木彫の名作です。体部を複雑に廻る天衣も矛盾なく表現され、頭髮が額に垂れ、耳を覆う表現にも現実感があります。

左手前膊の半ばから先、右手先、両足先等を除いて、本体から台座の蓮肉部までを含み、カヤと見られる針葉樹の一枚から彫出し、像内に削りも施していません。全体と細部の調和を図りながら、一枚から像を破綻なく彫り上げた仏師の技量を



●菩薩半跏像(伝如意輪観音) 奈良～平安時代・8～9世紀 京都・宝菩提院願徳寺蔵 (10月3日(火)～11月5日(日)展示)

には驚嘆させられます。瞳に黒い珠を嵌め、二重瞼で切れ長な目の表情は異国的で、中国・唐代彫刻との強い関連性がうかがえます。宝菩提院願徳寺はかつて長岡京の北域(向日市寺戸町)に所在しました。後に荒廃したため、本像をはじめとする諸仏は花の寺として知られる勝持寺(京都市西京区大原野所在)に一時移動安置されましたが、近年、当寺は勝持寺の近くに復興されました。(岩佐光晴)

インド風の檀像彫刻

重要文化財 十一面観音菩薩立像

大化改新で有名な藤原鎌足(六一四～六六九)の長男の定恵が、天智四年(六六五)に唐から帰国した時、



●十一面観音菩薩立像 唐時代・7世紀

持ち帰った可能性が高い像で、その後、奈良の多武峯に伝来しました。頭部の菩薩面から足の裏の柄まで

平安初期の一木彫の伝統を伝える

重要文化財 十一面観音菩薩立像

神奈川・宝城坊薬師三尊像とならば、鋭彫初期の代表的作例です。整然とした横縞状のノミ目を残していますが、顔は他の部分にくらべてよりきめ細かい彫りで特別な意識が働いています。全身を滑らかに整えた後に、背面を除き再びノミ目を刻んでいること、全身は白木のままなのですが、眉、目、口ヒゲ、胸飾を墨で描いていることから、これで完成させた

ことは明らかです。頭の十一面から足先、手先、天衣、左手の水瓶に至るまで一本のケヤキから造り、内削りもしておらず、平安時代初期の一木彫刻の古い伝統に基づいて制作されたことがわかります。

『弘明寺勸進帳』によると本堂は寛徳元年(一〇四四)頃の建立とあります。この像も本尊として同時期に制作された可能性が高く、作風とも矛盾しません。(金子啓明)

●十一面観音菩薩立像 平安時代・11世紀 神奈川・弘明寺蔵



仏像 一木にこめられた祈り

2006年10月3日(火)～12月3日(日) 東京国立博物館 平成館

主催：東京国立博物館、読売新聞社
後援：文化庁、日本テレビ放送網
協賛：大日本インキ化学工業
協力：日本香堂、エーエス
観覧料：一般1500円(1200/1100)
大学・高校生900円(700/600)

* ()内は、前売料金/20名以上の団体料金です。
* 障害者とその介護者1名は無料です。
入館の際に障害者手帳などをご提示ください。
* 作品保護のため、会期中作品の一部に展示替えがあります。

国宝 十一面観音菩薩立像

瞑想するかのような慈悲深い表情、ふくよかな胸や腹の肉付け、腰を捻^{ひね}って立つすらりとした肢体などその類いまれな美しさから、日本に現存する十一面観音の白眉ともいえる像です。琵琶湖の北部、高月町^{たかつきまち}に所在する向源寺の飛地境内の観音堂に伝来しました。

顔の脇、頭上や後頭部には十の面を大きく表し、その姿は非現実的ですが、それをまったく違和感なく、美しい調和の中にとめあげています。柔軟な肉体やそれを覆う衣の薄く柔らかな質感表現も見事です。頭部と体部から台座の蓮肉、さらに

両腕から本体を離れて台座に垂下する天衣も含めて針葉樹の一枚から彫出していますが、全く破綻がなく、木彫に習熟した仏師の高度な技術がうかがえます。

今回の展示では、どの方向から拝しても美しい本像の魅力を最大限に引き出したいと考えています。

(岩佐光晴)



●十一面観音菩薩立像 平安時代・9世紀
滋賀・向源寺蔵(渡岸寺観音堂所在)
(11月7日(火)～12月3日(日)に展示)

木の命がかたちになった

善財童子立像 円空作

ひよろひよろと伸びた先は、尖った頭に眉、目、耳を簡単に刻み、鼻は木を割ったときに出来た出っ張りをそのまま、口だけは微笑むように少し念を入れて彫っています。体は合掌する手先だけはわかりますが、足先はひとつしかありません。鱗の

ように両側にみえる突起はなにか。袖にしては数が多すぎます。円空が晩年に造った像は、このように具体的な形を省略したものが多くあります。この像は、丸太を三つに割って三尊仏を造ったうちの一体ですが、割れた木の形を生かして、あまり手

数をかけずに仕上げています。しかし、大きな土筆^{つぐし}のように上へ上へと伸びる動きが感じられ、微妙な反りが、合掌する姿勢にふさわしく、木の命がそのまま善財童子の命になったかのように感じられるでしょう。

(浅見龍介)



善財童子立像 円空作 江戸時代・17世紀 岐阜・高賀神社蔵

■ 同時開催

一木彫ができるまで 会場：平成館1階ガイダンスルーム

- 第1部 一木彫の制作工程模型展示「京都・醍醐寺蔵 重要文化財 聖観音菩薩立像」
- 第2部 一木彫像の樹種

特別展「仏像 一木にこめられた祈り」の開催期間にあわせて、木彫像がどのような過程を経ながら制作されるのかという点をより分かりやすくご理解いただくために、制作工程模型と一木彫像で使用される樹種のサンプルを展示します。第1部では平成15年度からご協力いただいている東京芸術大学大学院保存修復彫刻研究室の大学院生の方々が、本展に出品される重文 聖観音菩薩立像(京都・醍醐寺蔵)について、3つの工程を模型として制作し展示します。会期中には同大学院生によるギャラリートークも実施します(10月13日(金)、27日(金)、11月10日(金)、24日(金)の15:30～、18:30～)。第2部では独立行政法人森林総合研究所 多摩森林科学園のご協力により、触られる木材のサンプルやデータをご覧いただけます。特別展観覧の際には是非こちらへもお立ちよりください。木彫への興味がさらに深まることでしょう。(高梨真行)

■ 関連事業

落語会

庶民生活と仏像の関わりにふれる演目「井戸の茶碗」「お血脈」をお楽しみください。

10月20日(金)17:30～18:30(開場17:00)

会場：平成館大講堂 定員：380名(当日先着順)

入場無料

※ただし、特別展「仏像 一木にこめられた祈り」観覧券(当日の半券でも可)、当館友の会会員証・パスポートのいずれかが必要になります

<出演>五街道佐助、桂笑生

マーオリ — 楽園の神々 —

南太平洋に浮かぶニュージーランドに、1000年前から暮らすマーオリの人びと
マーオリの歴史と伝統、そして民族の誇りを紹介する展覧会を開催します



タウイフ(カヌーのへさき) カヌーはマーオリの諸部族の由来に関わるもの。生命力を表す渦巻文が施されている



ヘイ・ツイキ(ペンダント) 首をかしば、舌を出したマーオリ美術の定番キャラ。ポウナム(軟玉)で作られ、眼はアワビの殻

武勇を重んじたマーオリはさまざまな武器を持ちました。パツヤメレと呼ばれる短い棍棒が多いのは、接近戦で勝利することが勇敢さの

マーオリのイウイ(部族)は、彼らを運んできたワカ(カヌー)、根菜農耕に不可欠なパータカ(高床倉庫)、そして儀式や集会の場になるファレヌイ(集会所)を、自らのアイデンティティの象徴としました。それらには先祖の姿が刻まれ、イウイの系譜と個々のメンバーの絆が示されています。



マーオリ人の先祖は、東南アジアを旅立ったモンゴロイドです。彼らはすぐれた航海技術で太平洋の大海原を征服し、その一部がアオテアロア(ニュージーランドのマーオリ名)にたどり着きました。マーオリの初期の作品は、太平洋の先祖たちとの関係を示すものです。



トキ・ポウタガタ(儀式用の斧) ポウナム(軟玉)で作られた斧。木製の柄には先祖の像が彫り出されている

証拠と考えたマーオリ人の伝統に根ざしています。
猛獣のいなかったニュージーランドは、飛ぶことを忘れた



ポウナム(軟玉)は、美しい緑の輝きを持ち、武器やヘイ・ツイキ(人形のペンダント)として加工されました。マーオリ人は金属を利用しませんでした。人物像の眼の表現にアワビの殻の真珠層を用いるなど、独自の工夫がこらされました。

ポウトコマナフ(柱に彫り出された男性像) 顔には入れ墨。頸にはヘイ・ツイキをかけている

固有の美しい鳥がいましたが、マーオリ人はそれらの羽を利用して、さまざまなカフ(外套)を編み、首長を飾りました。
ニュージーランド南島で産出する

タイアハ・クラ マーオリのさまざまな武器のひとつ。マーオリは武勇を尊び、接近戦を美德とした
(白井克也)

十八世紀にジュームズ・クックをはじめとするヨーロッパ人が来航し、十九世紀にはイギリスからの植民が本格化しましたが、マーオリ人は西洋化の波の中を生き抜き、彼らの文化を発展させてきました。その結果、現在、ニュージーランドは世界でもまれな二民族国家・二文化主義を国是としています。
ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワとの交換展の 일환として実現する今回の展覧会は、マーオリ文化を約二〇〇件の実物資料で体感できる、アジアでは初の大规模な試みとなることでしょう。

ニュージーランド国立博物館
テ・パパ・トンガレワ名品展
マーオリ — 楽園の神々 —
2007年1月23日(火)~3月18日(日)
東京国立博物館
平成館 特別展示室第1・2室

主催：東京国立博物館
ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ
* 平常料金でご覧いただけます

悠久の美 中国国家博物館名品展

中国国家博物館所蔵品のなかから、えりすぐりの名品61件が来日。
新石器時代から五代にいたる約5000年の悠久の時のなかでつくりだされた
美の精髓を、こころゆくまでご鑑賞ください。



犀尊 前漢時代・前3～前1世紀
陝西省興平市 豆馬村出土
高34.6cm、長52.6cm
たくましい犀の姿をした容器。
背中に蓋があり、これを開け、水や酒を
いれました。かわいい尾が印象的



説唱俑 後漢時代・2世紀
四川省成都市 天回山出土 高55cm
太鼓を叩きながら芸を演じる人物を表わした
土製のやきもの。この表情は見逃せません

二〇〇七年一月二日から、「悠久の美 中国国家博物館名品展」を開催します。中国国家博物館は、北京市の天安門広場東側に位置する中国歴史博物館と中国革命博物館が、二〇〇三年に統合して生まれしました。中国歴史博物館は、考古資料や美術工芸品によって、旧石器時代から十九世紀までの中国の歴史を国内外で紹介する博物館でした。とくに十世紀以前の展示は中国各地から集めた質の高い出土品からなり、中国古代美術の粋を展観できるとの定評がありました。今回の展覧会は、新石器時代中期から五代まで、西暦でいえば前四〇〇〇年ころから後十世紀までの作品六十一件をえりすぐって展示します。定評ある展示品から厳選しただけに、作品の質はこれまで開催された中国展のなかでも最高水準といっても過言ではありません。

新石器時代の中・後期(前四〇〇〇年頃～前二〇〇〇年頃)の展示品

は、龍を描いた土器や、龍をかたどった玉器などです。中国の伝統文化である龍が、新石器時代の昔から存続したことが注目されます。

商時代から漢時代(前十五世紀～後三世紀)の展示では、著名な青銅器がずらりと並びます。力強い造形と美しい金銀象嵌で有名な犀尊、高さ一二六センチ、重さ約三〇〇キログラムと古代中国屈指の大きさを誇る大尊缶、七十七字の銘文を持ち、中国古代史および漢字の歴史を研究するうえで貴重な資料として著名な天亡簋など、見ごたえのある作品が並びます。

堅苦しいものばかりではありません。ユーモラスな説唱俑は、会場の一服の清涼剤。古代中国にはこんなものもあつたのかと思われる方も少なくないでしょう。

このほかには、兵馬俑や金縷玉衣(金の針金で玉片をつづつて作った人体を覆う衣装)、金印、南北朝時代の青磁、唐時代の金製品、唐三彩もあります。とにかくご期待下さい。



玉龙 新石器時代(紅山文化)・前3500～前3000年頃
内蒙古自治区 翁牛特旗 三星他拉出土
高26.5cm、幅26cm
龍の姿を表わした玉器。古さもさることながら、その大きさも別格。中国新石器時代の玉器のなかでも著名な作品の一つ



青磁羊 三國時代・3世紀
江蘇省南京市 清涼山出土
高24.9cm、長31.7cm
地に伏し羊の姿を表わしています。渋みのある釉薬が美しく、中国青磁の優品としてひろく知られています

悠久の美 中国国家博物館名品展

2007年1月2日(火)～2月25日(日)
東京国立博物館
平成館 特別展示室第3・4室

主催：東京国立博物館 日本中国文化交流協会
朝日新聞社 中国国家博物館

観覧料：一般1300円(1100/1000) 大学生800円(700/600) 高校生700円(600/500)

*()内は前売料金/20名以上の団体料金です。
*障害者とその介護者一名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。

特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

10月24日(火)～12月6日(水) 本館特別2室

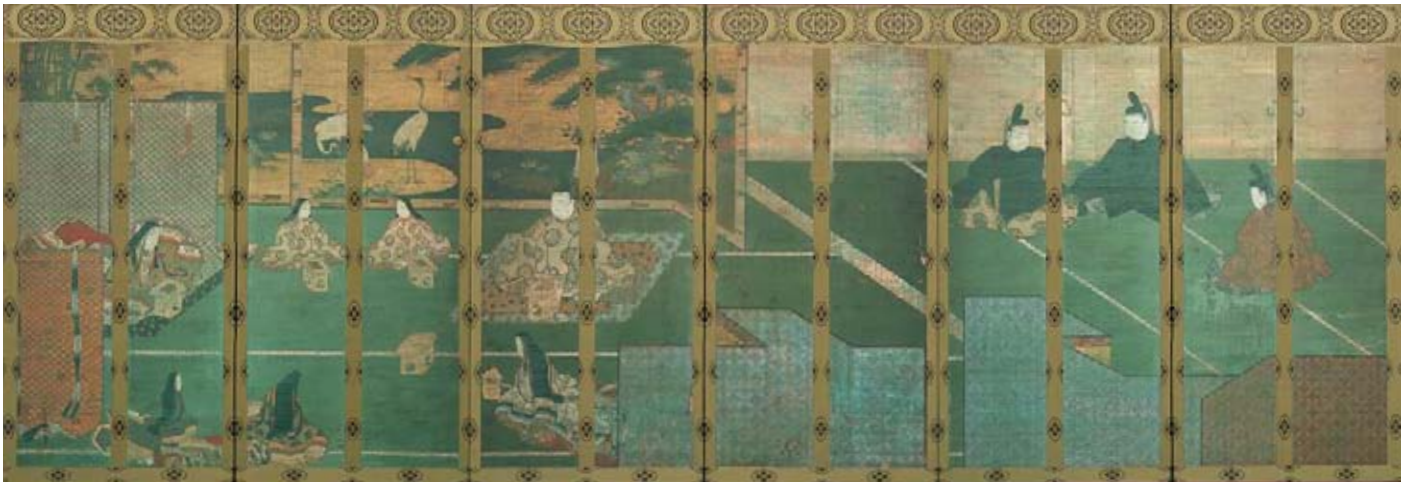


葡萄栗鼠螺鈿箱 中国 明時代・16世紀(修理後)

「東京国立博物館コレクションの保存と修理」の特集陳列は今年で七回目を迎えます。今年度は平成十七年度修理品の中から主な作品を展示します。今回は一室にまとめたこちらと併せて展示ですが、できるだけ多くの修理作品をご覧いただけるように企画しました。東京国立博物館コレクションの多様さもご紹介できるように、様々な分野、形態、技法の作品を展示する予定です。また、個々の作品を保存・修理するなかで得られた情報、修理方法や材料の選択などにもスポットをあて、関連資料とあわせてご紹介いたします。

毎年好評の保存と修理の現場をめぐるバックヤードツアーや、座談会も開催。展示室では会期中毎週火曜日に列品解説も行います。是非ご参加ください。

(塚田全彦)



源氏物語図屏風 土佐光起筆 江戸時代・17世紀(修理後)

■関連事業

1. 見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」

文化財の保存と修理についての解説および修理室の見学ツアーを行います。今回は、考古遺物の修理準備や油彩画のクリーニング作業を中心にご案内します。

対象：一般

日時：第1回 10月25日(水)13:30～15:30

第2回 10月26日(木)13:30～15:30

(第1回・2回ともに内容は同じです)

会場：小講堂、実験室、修理室等 定員：各回30人(事前申込制)

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に希望日、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申し込みください。

*1枚のはがきで、1人1回分のみ申し込み可能。*応募多数の場合は、抽選のうえ参加通知を送ります。

申込締切：10月11日(水)必着

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育講座室「見学ツアー」係

2. 座談会「文化財の保存と科学のちから」

日時：12月2日(土)13:30～15:00 (開場13:00)

会場：平成館大講堂

定員：380名(当日先着順)

出席者：国士館大学教授 沢田正昭、当館保存修復課長 神庭信幸ほか 聴講無料(ただし当日の入館料が必要)

3. ギャラリートーク(列品解説)修理品等の解説

10月24日から11月28日の毎週火曜日、14:00から

*本誌巻末の「10月・11月の展示・催し物」参照

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

林忠正コレクションの原点を見る

最年少の踊り子たち

ポール・ルヌアール筆

10月31日(火)～11月26日(日) 平成館企画展示室

特集陳列「没後百年 林忠正コレクション」

ポール・ルヌアール展」より

不安そうに横を向いたり、慣れない衣装に身を包み、どうポーズしているのか戸惑い、もじもじ…バレエ教室に入つて間もない少女たちのぎこちないしぐさをありのままにとらえています。表情を美化せず、一瞬の心理状態まで克明に描き出しています。

これは、「バリ・イリュストレ」誌などで活躍した画家ポール・ルヌアール(Charles Paul Renouard 一八四五～一九二四)の作品です。炭鉱夫、踊り子、動物など身近な題材を描きました。当館が所蔵するルヌアール作品は、明治初期、ジャポニズムの波に乗ってパリで日本美術商として活躍した林忠正(一八五三～一九〇六)が画家本人から譲られたものです。林は浮世絵など日本の古美術品を欧米に輸出し、当時活躍していた芸術家たちと交わり、彼らの作品を数多く収集していますが、林の西洋美術収集のきっかけが、まさにルヌアールの作品でした。林は、この画家のデッサンはその驚くべき多様性にもかかわらず、画家自身の人間性そのものであることを感じ、鋭い自然観察力と非凡

な観察者精神、そしてそれを具現化する確かなデッサン力に感嘆したといわれています。

日本は外国の美術を受け入れ、消化しながら独自の美術を作り上げてきました。ところが、この模倣の繰り返しを当時の日本人芸術家たちに行き詰まりをもたらし、西洋美術の精神を導入し、新しい流れをつくるべきであると提案し、日本に西洋美術館を設立する構想を抱いていました。惜しくも実現前に亡くなりましたが、その意図を汲み、遺族が大正四年に当館に寄贈したルヌアール作品は他の画家による油彩のルヌアール像一点を含め、一四八点にのぼります。このたび、林忠正の没後百年に際し、ルヌアール関連品約百点を前後期に分けて約五十点ずつご紹介いたします。自然の観察によってのみ、真の芸術作品を生み出すことができると思つた西洋美術大収集家林忠正のコレクションの原点となる世界をお楽しみください。

(土屋裕子)



特集陳列
「没後百年 林忠正コレクション ポール・ルヌアール展」(10月3日(火)～11月26日(日))より
「最年少の踊り子たち」 ポール・ルヌアール筆 19世紀 アクアチントなど技法を駆使したエッチング(10月31日(火)～11月26日(日)展示)

注目の 特集

本館特別1室 企画展示

解説とワークショップで楽しみ方も伝授 特集陳列「古文書」

「歴史を語るメッセージ」

10月3日(火)～11月5日(日)

この特集陳列では、平安から安土桃山時代にかけて出された古文書を展示します。下文という古い様式のものをはじめ、わが国の歴史を彩る様々な政権や権力者が支配のために出したもの、歴史上の事件を我々に伝えてくれるものを陳列

します。文章や文字だけではなく出人のサインである花押や印章の位置、料紙の規格、筆遣いなどの色々な要素の分析から差出人と受取人との人間関係や地位などを推測することが出来ます。だから「文字はちよつと苦手…」という方でも大丈夫！天下人となった信長・秀吉・家康の古文書も出品しますのでご期待ください。また会期中には当館の生涯学習ボランティアによる簡単な解説と古文書本来の姿を再現するワークショップも実施します。古文書鑑賞の楽しさを展示室で感じ取っていただけます。



織田信長朱印状
安土桃山時代・天正2年(1574)
非表装のため、当時の状態が良好に保存されている

◆ボランティアによる解説
10月4日～11月5日
13:00～16:00 1回20分程度

(高梨真行)

本館特別1室 企画展示

美術の中の猫たち 特集陳列「猫」

11月7日(火)～12月6日(水)

人の生活に最も馴染み深い動物の一つである猫。その身近さを物語るように、古くから様々な形で造形化されてきました。そこには寓意や象徴も込められ、猫と人との関わり方や猫に注ぐ人々の視線の軌跡を窺うことが出来ます。今回の陳列では、絵画作品を中心に、日本美術の中で造形化された猫の図像を読み解き、猫と人との関わり方の一端を探ります。
鼠の天敵として表現された猫。



猫あそび 歌川国芳筆 江戸時代・19世紀
猫の姿そのものを楽しむ作品が登場するのは19世紀以降。国芳はその代表的作家といえる

生活場面の添景として描かれた猫。中国絵画の意図を受け継いだ吉祥図としての猫。浮世絵における源氏物語・若菜帖の女三宮の見立てを表現する小道具としての猫。変化に富

む姿態の面白さそのものを表現した擬人化された猫等々。そんな豊かな猫たちの図像の世界をお楽しみいただければ幸いです。
(沖松健次郎)

本館9室 能と歌舞伎

多彩な模様と表現を楽しんで 特集陳列「能装束の華——唐織——」

8月29日(火)～10月29日(日)

能舞台を華やかに彩る、唐織。主に女性を演じる際の表着に使用されますが、もともとは織物の名称でした。唐織は室町時代末期から日本で織られるようになり、刺繍のような風合い、ヴァリエーション豊かな模様表現が、中国にはない日本独特の織物です。それなのに「唐織」の意味は「中国風の織物」なのですから不思議です。一言に「唐

織」といっても、時代や使い途によつてさまざま。金糸のきらびやかさも最初からではなく、元禄文化とともに華開きました。唐織の模様や色の表現が多様に展開するのも、年齢や身分など主人公の性格を象徴する演出効果が込められているからです。能舞台から生まれ、卓越した織物技術を誇る唐織の精髓をご覧ください。
(小山弓弦葉)



唐織 紅緑段御簾色紙短冊萩模様 江戸時代・18世紀
優雅な貴族女性を思わせる、御簾に萩の模様

江戸の花形 顔見世興業

特集陳列 「写楽」

11月7日(火)～12月6日(水)

今回の特集陳列は、東洲斎写楽とうしゅうさいしゃらくによる役者絵の顔見世。

写楽は、寛政六年(一七九四)五月から翌年一月までのわずか十ヶ月の間(途中閏月がある)に百四十点を超える作品を残して忽然と姿を消しました。その作品は個性に富み、すべての作品が名プロデューサー 蔦屋重三郎つむやしむさぶろを版元として出版されています。そのため、写楽は謎の浮世絵師と呼ばれ、別の知名人が写楽を名乗って制作をしたのでは



◎市川鯉蔵の竹村定之進 東洲斎写楽筆 江戸時代・寛政6年(1794) 寛政6年5月河原崎座上演の「恋女房染分手綱」に取材

ないかと諸説が出されました。近年では、長年一番有力とされてきた阿波の能役者斎藤十郎兵衛が写楽であろうとしてほぼ落ち着いています。「あまりに真を画かんと

てあらぬさまにかきなせしかば、長く世に行われず、一兩年に而止ム」と同時代の人からも評された作品。その魅力を十分にお楽しみ下さい。(田沢裕賀)

本館14室 工芸

工程見本に見る工芸技術の粋 特集陳列 「伝統工芸—技術記録」

10月31日(火)～12月17日(日)

文化財には有形と無形の二種類があります。有形文化財は絵画、工芸や出土品のように文字どおり形のあるもの。これに対して無形文化財は、能や歌舞伎、雅楽といった演劇や音楽のように、それ自体が形をもたないものです。伝統工芸を作る技も、そうした無形文化財の重要な分野のひとつとなっています。

日本の伝統的な工芸は長い歴史

の中で生れてきた優れた技によって作られています。こうした技を後世に伝えていくために、昭和二十年代末から三十年代にかけて国によって工芸技術の記録保存が行われてきました。今回は記録保存によって作られた工程見本などを手がかりとして陶磁、漆工、金工など、さまざまな分野の伝統の技の世界を探ります。(伊藤嘉章)



色銅島皿制作工程

12代今泉今右衛門作昭和29年(1954)

街道を行く旅人たちに会える 日本の博物学シリーズ

特集陳列 「旅と街道」

10月17日(火)～12月17日(日)

江戸時代には、大名の参勤交代や、庶民の伊勢参りなど、大勢の人々がさまざまな目的で旅に出かけました。全国の街道は、幕府の統治のために整備されましたが、文化や情報を伝達する役割も果たしています。展示では、主要な街道の

様子を詳細に描いた『東海道分間延絵図』(重文)、精巧で生き生きとした『大名行列人形』、快適な長旅をするための知恵がいつぱいまった『旅行用心集』など、旅の楽しさを伝える資料をご紹介します。(高橋裕次)



大名行列人形 明治時代・19世紀 山田幾右衛門作 街道を進む人々の足音が聞こえてくるよう



本館2室 国宝室

この世がそのまま浄土に

国宝 山越阿弥陀図

9月26日(火)～10月22日(日)



●山越阿弥陀図 京都・禅林寺蔵 鎌倉時代・13世紀 仏の明快な彩色と奥行きのある空間表現は、鎌倉時代の特徴

阿弥陀様といえは、往生者を迎えて救ってくれる極楽浄土の主です。ただしこの作品では、他の阿弥陀来迎図と異なつて、左上の円のなかに「阿」という梵字が書かれています。宇宙の一切を象徴するこの「阿」字を、心静

かに見詰め唱え続けると、煩惱の雲は晴れわたり、今まさに眼前の世界が、歓喜の浄土へと変貌するのです。この世での成仏をめざす真言密教と、あの世への往生を願う浄土信仰が、ひとつに溶けあつて生み出された貴重な作品です。二カ年にわたる修理で面目を一新し、このたび修復後の初公開となります。(行徳真一郎)



●観楓図屏風 狩野秀頼筆 室町～安土桃山時代・16世紀 橋のたもとには墨染めの僧侶一行も見える

本館2室 国宝室

紅葉狩りの宴

国宝 観楓図屏風

10月24日(火)～11月19日(日)

紅葉した楓や松に囲まれた川べりに、二つのグループが楽しそうに宴を開いています。橋の上には笛を奏でる男たち、橋のたもとには禅僧たち、女性たちの傍らには茶売り。洛中洛外図などの比較により右上の伽藍は神護寺、左上は愛宕社、したがってここは紅葉の名所、高雄とわかります。この屏風は、江戸時代の遊楽図や浮世絵など、いわゆる風俗画の先駆けとして高く評価されてきましたが、万人の憧れる高雄の紅葉狩りをいきいきと描きえた背景として、室町時代における風俗表現の積み重ねも重視されるべきでしょう。(救仁郷秀明)

東洋館第8室

「中国書画精華」書跡の見どころ

急足帖 呉琚筆

9月5日(火)～10月29日(日)

南宋の十二世紀から十三世紀に活躍した呉琚は、北宋の四大家の一人である米芾(一〇五一～一一〇七)の書を学び、落款印章がなければ米芾の書と区別がつかないといわれました。呉琚の書は、ときに米芾の書と誤つて伝えられることもあったと言われるほどです。この書は、呉琚が飛脚使(急足)で届いた手紙の返信を認めたもの。余白の跋文には、清時代の大学者・翁方綱が、呉琚の同様の手紙が『快雪堂帖』に収録され

平成館考古展示室

豊穣への祈り

流水文銅鐸

12月10日(日)まで

弥生時代の代表的な遺物といえは銅鐸といえるでしょう。銅鐸は、はじめ小型で中に舌を下げて鳴らしていましたが、さいごには吊り下げられないほど大型化します。聞く銅鐸から見る銅鐸への変化と考えられています。また、銅鐸にはさまざまの種類の文様が描かれていますが、そのなかでも人や動物を描いたも



流水文銅鐸 大阪府八尾市恩智出土 弥生時代(中期)・前2～前1世紀 安井増太郎氏・堀井恵覚氏寄贈 農耕に深く関わる祭祀の道具

ているが、この書も法帖に収録して末永く世に伝えるべきだ、と絶賛しています。(富田淳)

急足帖 南宋時代・12～13世紀 高島菊次郎氏寄贈 米芾の書にそっくりだが、やや陰しさに勝る



のを絵画銅鐸と呼んでいます。写真の銅鐸には、鈕の部分にカエルが、裾部には魚列が描かれています。反対側の裾にはシカ列が描かれています。カエル・魚列は水田の周りの生物であり、シカは体の模様や角などの身体的変化と稲の成長とが呼応することから、稲の豊作を願う図柄と思われる。(日高慎)

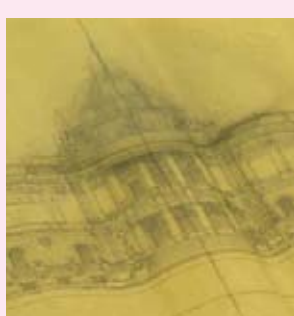
表慶館 改修記念

表慶館の歴史を知る 展示コーナーを開設します

明治期を代表する洋館建築、表慶館の改修工事が終了しました。外光を取り入れ、壁やドアの塗装などを建築当初の色に戻した展示室内部を公開すると同時に、表慶館創建当時の建築設計図面やその後の表慶館の歴史について、パネルなどでご覧いただく予定です。美しい建築空間を堪能する機会となることでしょうか。また、11月21日(火)～26日(日)には、台東区の伝統工芸職人展を表慶館で開催します。東京国立博物館のある台東区には、職人の手わざによる伝統産業が生きています。優れたものづくりの技術・技能を伝承する職人による実演を披露します。「台東区の伝統工芸職人展」に関するお問い合わせ先は、台東区産業部経営支援課 TEL03552461131



台東区の伝統工芸職人展



表慶館設計図

国立博物館 観覧料改定のお知らせ

独立行政法人国立博物館の予算は、国からの「運営費交付金」と入場収入などの「自己収入」により構成されます。第二期中期目標期間の初年度にあたる平成18年度の「自己収入目標額」は、独立行政法人化後の平成13年度～16年度の4年間の収入実績の平均が算定の基礎とされました。

国立博物館は、独立行政法人化以後、様々な経営努力を重ね、入場収入や財産貸付収入などの実績が大きく増加した結果、平成18年度のノルマは約10.4億円となり、平成17年度の約6.8億円に対し大幅に高く設定されることになりました。

また、第二期中期目標期間(平成18年度～22年度)には、支出に関して一般管理費15%、事業費5%、人件費5%の効率化を行うとともに、収入のノルマを毎年1%増とすることが国により定められています。

こうした状況のもと、国立博物館は、各種事業費の削減と共に光熱費などの管理費の節減を図るとともに、多角的な事業展開による収入確保に努めて参ります。しかしながら、平成18年10月1日から以下の通り平常展観覧料金を改定せざるをえないこととなりました。

今回の料金改定により、平常展の展示をより一層の充実を図り、国民共通の宝である文化財を良好な形で保存し、後世に伝えていくとともに、より親しみのもてる国立博物館となるよう、「子どもといっしょ割引」等の新たな割引制度を開始いたします。

なお、今回の改定は、地域の状況を考慮し、館により異なる改定額となります。現行の料金から見ますと引き上げ率は大きくなりますが、一定の期間はこの料金を据え置くよう、最大限の努力をして参ります。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

改定内容

1. 平常料金の改定について

現行料金 (2006年9月30日まで)

(単位:円)

区分		東京	京都	奈良	九州
個人	一般	420	420	420	420
	大学生	130	130	130	130
	高校生	無料			
	小中生	無料	無料	無料	無料
団体	一般	210	210	210	210
	大学生	70	70	70	70
	高校生	無料			
	小中生	無料	無料	無料	無料
高齢者	65歳以上 無料	70歳以上 無料	70歳以上 無料	70歳以上 無料	
障害者	無料 (介護者1名)	無料 (介護者1名)	無料 (介護者1名)	無料 (介護者1名)	

改定料金 (2006年10月1日より)

(単位:円)

区分		東京	京都	奈良	九州
個人	一般	600	500	500	420
	大学生	400	250	250	130
	高校生	無料			
	小中生	無料	無料	無料	無料
団体	一般	500	400	400	210
	大学生	300	200	200	70
	高校生	無料			
	小中生	無料	無料	無料	無料
高齢者	70歳以上 無料	70歳以上 無料	70歳以上 無料	70歳以上 無料	
障害者	無料 (介護者1名)	無料 (介護者1名)	無料 (介護者1名)	無料 (介護者1名)	

2. パスポート制度の改定について(2006年10月1日販売分から改定)

区分		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館			九州国立博物館		
		一般	学生	一般	学生	家族	一般	学生	一般	学生	
年会費	現行	3,000円	2,000円	3,000円	2,000円	6,000円	3,000円	2,000円	3,000円	2,000円	
	改定	4,000円	2,500円	変更なし							
特典	平常展	現行	無料 ※奈良博家族会員は1回につき奈良博は5人まで、他館は1人のみ								
		改定	変更なし								
	特別展	現行	各展覧会ごとに1回、合計6回まで無料(4館共通) ※奈良博家族会員は1回につき奈良博は5人まで、他館は1人のみ								
		改定	変更なし	各展覧会ごとに1回、合計6回まで無料 ただし関西地区(京博・奈良博)以外については2回までとする。 ※奈良博家族会員は1回につき奈良博は5人まで、他館は1人のみ						各展覧会ごとに1回、合計6回まで無料。ただし九博以外については2回までとする。	

※2006年10月1日より東京国立博物館パスポートの振替先が変わりました。詳しくは、本誌15ページをご覧ください。

3. 新しい割引サービス(平常展のみ)

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
子どもといっしょ割引:子どもと一緒に来館した同伴者を割引		
子ども(高校生以下)の同伴者に団体料金を適用 (子ども1人につき同伴者2人まで)	子ども(中学生以下)の同伴者に団体料金を適用	
・平常展割引バス(2000円)(65~69才限定・利用期限1年) ・外国人割引(ウェルカムカード提示者:一般100円引) ・東京・ミュージアムぐるっとバス(100円引) ・東京メトロ一日乗車券(100円引)	レイト割引(冬休み[12月・1月]・夏休み[7月・8月]の開館時間延長時の17時以降入館者に団体料金を適用)	

※新たに設けた割引サービスを掲載しております。従来の割引については各館のウェブ等でご確認ください。

4. 新たな無料観覧日を設置(平常展のみ)

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
国際博物館の日(5月18日)			国際博物館の日 (5月18日直近の休館日を開館)
節分の日			敬老の日

※新たに設置した無料観覧日を掲載しております。従来の無料観覧日については各館のウェブ等でご確認ください。



博物館施設の心臓部、中央監視室



第12回

電気と機械の見張り番

中央監視室の一日

平成館地下、中央監視室。ここでは、電気設備と機械設備の保守管理を行っています。博物館の活動を支える、文字通り、縁の下の力持ち。電気と機械のプロの一日を追ってみました。

多いときには一日一万人を超す来館者を迎える東京国立博物館。夏の博物館は都心の灼熱地獄を忘れさせる高原のオアシスのよう、冬の博物館は暖かい我が家のように。お客様にはそんな風にも感じてもらいたい。

十一万件を超える貴重な文化財が展示・保管されている東京国立博物館。国の宝をしっかりと守りたい。毎日三百人以上の人々がさまざまな業務に従事する東京国立博物館。それらの人々が、効率よく仕事をするための快適な環境を作りたい。

そのためには、五つの展示館と資料館、計六つの建物に常に安定した電力を供給し、空調などの機械設備を正常に稼働させなければなりません。それは博物館にとってごく普通の日常を支える基礎的な仕事。だれもがあつて当たり前のことのように享受しているこの環境を維持するために、実は、毎日の地道な営みがあるのです。平成館地下、中央監視室。今回はここに、電気設備と機械設備のプロをたずねてみることにしましょう。

博物館のいちばん鳥

八月十日、午前七時三十分。

東博の一日は中央監視室から始まります。機械担当の宮本利治さんと山本和寿さんは、出勤するとすぐに作業着に着替え中央監視室隣の鉄の扉の中へと消えていきました。そこは、巨大なボイラーが並び、無数の配管がめぐらされた機械室です(写真1)。

館の通常の勤務時間は九時から。開館は九時三十分。それまでに空調を稼働させなくてはなりません。東博の空調は、ボイラー(写真2)による熱エネルギーで、夏は吸収式冷凍機(写真4)で冷水を、冬は熱交換器で温水を作り、空気を冷やしたり温めたりしています。朝いちばんの仕事はこの冷凍機の稼働準備です。

午前八時、ボイラー点火。蒸気の圧力が一定の水準に達するまでは、計器を監視しながらの手動運転です。

熱い蒸気は蒸気ヘッドに送られ、そこから各館の吸収式冷凍機・熱交換器につながる蒸気管に分配され

ます(写真3)。こちらも計器を確認しつつ、三十分かけてバルブを全開にしていきます。

前日の熱気が残るボイラー室。点火とともに室温は再び上昇し、三十五度に(写真5)。昼には四十度近くになるそうです。二人の額に汗が光り、作業着はじっとり汗で濡れてきます。

電気の見張り番

ボイラーと冷凍機が順調に稼働しだした九時少し前に、電気担当の中島光吉さんと坂井照良さんほか、中央監視室の業務を委託している(株)太平エンジニアリング(株)三冷社の職員も出勤してきました。

中央監視室には博物館内すべての電気系統の状況がひと目で把握できるグラフィックパネルが設置されています(写真11)。その横には、全館の七つの変電設備のモニター、空調機器のモニターがあり、すべてここで集中管理できるシステムになっています。

夜間に異常が発生していないか、記録紙をチェックするとともに(写真12)、手動運転のコンデンサーのスイッ

チをオン。異常はありません。順調な一日のスタートです。おや、坂井さんが天気予報で今日の最高気温をチェックしています。毎年、夏場は電力

の需要のピークを迎えますが、使用電力量が契約電力量を上回ると違約金を課せられるため、電力消費量の監視も重要な仕事なのです。今日の気温は平年並み。まず心配はなさそうです。

九時十分。本館17室の蛍光管が切れていたのを、高所作業車を使って蛍光管の交換を行いました(写真13)。こうした仕事はすべて開館前に終わらなければなりません。

全館見回りの旅へ

九時三十分。機械の点検に同行することになりました。蒸気管に異常はないか、空調機は順調に稼働しているか、すべての建物の地下にある機械室をめぐる旅が始まりました(写真6)。

空調機の計器類とモーターベルト(写真7)、蒸気管の減圧弁が重点チェックポイントです。平成館から法隆寺宝物館、資料館、

東洋館、本館とすべての地下を早足でめぐると、一時間から一時間半かかります。さらに、オフィス、展示会場などで、空調の効きはどうか、機器に異常はないか点検をします。毎日必ず点検にまわることで、それが異常を確実に、いち早く察知する最良の方法なのです。

点検から戻ると、空調機のフィルター交換の作業が待っていました。真っ黒になったフィルターを手際よく交換していきます(写真9)。特別展会場

の空調機では、展覧会ごとに交換します。たった六週間から八週間でフィルターは真っ黒になるそうです。

七つの変電所めぐり

午後は電気担当の中島光吉さんの見回りに同行することになりました。東博の電気設備の心臓部も平成館地下、機械室の隣にあります(写真14)。設定温度は二十三度。計器類は熱に弱いので、こうして一定の温度に保つ必要があるのです。

東博に電力を供給する送電線は、東京電力から直接くる線と、京成電鉄を経由した線の二本(写真15)。落

機械のプロのお仕事



1 巨大な機械設備がうなりをあげて稼動する、平成館地下機械室



2 巨大なボイラー。夏も冬も、3台のうちの2台を稼働させる



3 蒸気ヘッダー。ボイラーでつくられた蒸気はここから各館の機械に送られる。



4 平成館の吸収式冷凍機。蒸気の熱エネルギーを使って、空調用の冷却水をつくる



5 朝8時、早くも35度を示すボイラー室の温度計



6 天井を蒸気管が縦横に走る本館機械室



7 空調機のモーターベルトを点検



8 本館地下の空調ダクトと配管設備の見回りをする宮本利治さんと山木和寿さん



9 空調機のフィルターを交換。真っ黒になったフィルターを取り外し、新しい白いフィルターをつける



10 ボイラーのバルブを開めて、一日が終る

電気のプロのお仕事



11 中央監視室のグラフィックパネルに目を光らせる坂井照良さん。ここにすべての情報が集約される



12 記録紙で警報記録をチェック



13 本館17室で蛍光灯の取替え作業



14 平成館電気室入り口。関係者以外は立ち入り禁止



15 2万ボルトの特別高圧電線



16 計器用変圧器をチェックする中島光吉さん



17 本館電気室で計器をチェック



18 本館北側庭園のポンプ室変電所も点検。火災の備えも万全



19 非常時用の発電機。燃料は重油

雷などで、一方の経路に事故が生じた場合のバックアップのため二本確保されているのです。ちなみに東博の受電電圧は二万二千ボルト。消費電力は、東京電力の足立・荒川・台東の管内で五番目に多い、年間約一億二千万円、月平均一千万円の電気代を払っています。膨大な額に驚かされませんが、全館で省エネに取り組み、中央監視室では常に電気の力率を百パーセントに近づけるよう努力を重ねた結果の数字です。東博の施設がいかに大きいかわかります。

中島さんはヘルメットをかぶり、懐中電灯を片手に各館の変電所をま

わり、トランス、コンデンサー、配電盤などを点検していきます(写真16・17)。電気設備の異常を知らせるのは、音と匂い。どこからか入りこんだ猫が高圧線に触れて死んでいた、というような事故が過去にありました。

さらに、本館北側の庭園に向かい、

火災発生時のためのポンプ室にやってきました(写真18)。ここにも変電設備があるので。展示室やオフィスの照明機器などを点検し、館内を一巡すれば、一日はあっという間に過ぎてしまいます。

不測の事態に備えて

中央監視室では、常に設備担当者が監視パネルに目を光らせています。館内だけでなく、東京電力の変電所での事故、近隣での落雷など、館への電力供給に影響の出るものについても監視をします。

東博には、大地震などで電力の供給がストップした場合の予備電源も用意されています。

平成館地下の電気室には二台の発電機(写真19)が設置されており、何らかの原因で電気の供給がストップした場合、この発電機が自動的に運転を開始し、三十秒以内に電力の供

給を開始します。常備された燃料で四時間の電力供給が可能です。最悪の場合でも、緊急避難が完全に終了するまでの電力が確保されているのです。非常灯に関しては、最初の三十秒間も非常用のバッテリーによりカバーされます。こうした機器の保守点検も重要な仕事です。

一日の終わり

午後四時三十分、閉館三十分前にボイラーは消火されます。ボイラーのスイッチを切り、バルブを閉めて一日の作業は完了(写真10)。いつばう、電気設備はタイマーによる自動制御

でスイッチを切ります。館内各部署から時間延長の申請が提出されないかを確認し、エリアごとの時間設定を行って、一日の業務は終了です。

何事もなく無事に終わった一日。それが何よりの収穫です。一部施設の老朽化も抱え、不測の事態はいつ起こるかわかりません。それでも、日々の確実な保守点検が、明日の安全を保障してくれるはず。多くのお客様と、貴重な文化財を守るため、中央監視室の業務は、三百六十五日休むことなく続けられるのです。

(小林牧)

INFORMATION

コンサート開催のお知らせ

TOKYO NATIONAL MUSEUM MUSIC GALLERY

ガラテア・カルテット

日時 10月14日(土) ①13:00~13:40 ②15:00~15:40
 会場 東京国立博物館 本館特別5室
 出演 ガラテア・カルテット(弦楽四重奏)
 主催 東京国立博物館 協力 上野のれん会
 曲目 シューベルト 四重奏断章 ハ短調D703 ほか
 (1回目と2回目で曲目が異なります)

※無料(ただし当日の入館料は必要)・事前予約不要。
 当日、会場にお集まりください 各回250席

奈良・平城遷都1300年「回帰」 ゴンチチ・音燈華・コンサート

日時 10月21日(土)、22日(日) 19:00開演(18:30開場)
 会場 東京国立博物館 本館前特設野外ステージ
 出演 GONTITI(ゴンチチ)
 主催 奈良テレビ 共催 東京国立博物館
 制作 B.B.Productions
 協力 ヒップランドミュージック、ポニーキャニオン
 曲目 放課後の音楽室 ほか
 料金 6500円(平常展観覧券付) 1,000席全席指定

※チケットはキョードー東京、チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、
 イープラス、楽天チケット、東京国立博物館(正門窓口のみ)で販売
 ※お問い合わせ・お申し込み キョードー東京 TEL03-3498-9999

東京国立博物館 表慶館改修記念 保多由子メゾ・ソプラノコンサート★

日時 10月31日(火) ①16:30開演 ②19:00開演
 会場 東京国立博物館 表慶館
 出演 保多由子(メゾ・ソプラノ)、寺嶋陸也(ピアノ)
 主催 東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
 曲目 カッチーニ アヴェ・マリア、アメリカ民謡 アメイジング・グレイス ほか
 料金 5000円 各回130席 全席自由
 ※コンサート当日、平常展をご観覧いただけます。

チケットのお求め方法

- 当館正門観覧券売場でのチケット販売
 受付 開館日の9時30分~閉館30分前(月曜休館)
- 電話予約販売
 申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL03-3821-9270
 受付 月曜日~金曜日の9時30分~17時00分(祝日は除く)
 引換時間 コンサート当日、当館正門観覧券売場にて現金引換にて
 お渡しします。

♪その他のコンサート予定

「家喜美子チェンバロ演奏会」★

出演：家喜美子
 日時：10月15日(日) 14:00開演 会場：表慶館

「西江辰郎&ジュゼッペ・アンドローロ デュオリサイタル」★

出演：西江辰郎、ジュゼッペ・アンドローロ
 日時：10月17日(火) 19:00開演 会場：平成館ラウンジ

「芸 三代の継承 能 羽衣」★

出演：関根祥六(羽衣)ほか
 日時：10月30日(月) 18:00開演 会場：法隆寺宝物館前

「心花~kokohana~時空を超えた“絃”の響き」★

出演：心花~kokohana~
 日時：11月3日(金・祝) 18:30開演 会場：表慶館

「河村典子ヴァイオリンひとりin 表慶館」★

出演：河村典子 日時：11月4日(土) 11:00開演 表慶館

「秋もはじめにきよし 紅葉に届け 国宝級ほっこりサウンド」★

出演：はじめにきよし 日時：11月4日(土) 16:30開演 会場：表慶館

「アカペラで聴く 唱歌・童謡の世界」★

出演：もたらう 日時：11月5日(日) ①14:00開演②18:00開演
 会場：表慶館

「天満敦子無伴奏ヴァイオリンコンサート」★

出演：天満敦子 日時：11月18日(土) 19:00開演 会場：平成館ラウンジ

※★印は有料イベントです。

※各イベント詳細は、東京国立博物館イベント担当(03-3821-9270)または、
 当館ホームページでご確認ください。
 ※お車でのご来館はご遠慮ください。

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、
 当館を幅広くご支援いただいております。賛助
 会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修
 理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあ
 っております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご
 賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申
 上げます。

入会日より一年(入会月の翌年同月末日まで)
 有効。賛助会員には、特別会員と維持会員と
 の二種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
 維持会員 法人 20万円
 個人 5万円

特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

* 賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

* お問い合わせ

東京国立博物館営業開発部 賛助会担当
 TEL03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2006年8月21日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
 東京電力株式会社 様
 株式会社コア 様
 株式会社 精養軒 様
 毎日新聞社 様
 大日本印刷株式会社 様
 株式会社 大林組 東京本社 様
 朝日新聞社 様
 株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
 株式会社 ミロク情報サービス 様
 TBS 様
 東京新聞・中日新聞社 様
 株式会社 電通 様
 読売新聞東京本社 様
 クラブツーリズム株式会社 様
 三菱商事株式会社 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
 早乙女 節子 様
 株式会社 三冷社 様
 宇津野 和俊 様
 伊藤 信彦 様
 小金井造園株式会社 様
 株式会社 NTTドコモ 様
 井上 萬里子 様
 田添 博 様
 京菓匠 鶴屋吉信 様
 株式会社 東京美術 様
 服部 禮次郎 様
 数内 匡人 様
 岩沢 重美 様
 高田 朝子 様
 齋藤 京子 様
 齋藤 邦裕 様

株式会社 安井建築設計事務所 様
 株式会社 ナガホリ 様
 井上 静男 様
 佐々木 芳絵 様
 藤原 紀男 様
 小田 昌夫 様
 吉岡 昌子 様
 松本建設株式会社 様
 関谷 徳衛 様
 高橋 守 様
 小澤 桂一 様
 上久保 のり子 様
 樹田 良豊 様
 株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
 長谷川 英樹 様
 池田 孝一 様
 木村 剛 様
 観世 あすか 様
 コクヨ株式会社 様
 星 埜 由尚 様
 株式会社 鴻池組 東京本店 様
 株式会社 アクタス 様
 林 宗毅 様
 安田 敬輔 様
 久保 順子 様
 渡辺 章 様
 福田 哲行 様
 堀江 磨紀子 様
 帖佐 誠 様
 株式会社 古美術藪本 様
 飯岡 雄一 様
 峯村 協成 様
 大嶋 道子 様
 牧 美也子 様
 高瀬 正樹 様
 坂井 俊彦 様

寺浦 信之 様
 高木 美華子 様
 暁飯島工業株式会社 様
 山岡 コウ子 様
 根田 穂美子 様
 松本 澄子 様
 池嶋 洋次 様
 鷲塚 泰光 様
 是常 博 様
 上野 孝一 様
 北山 喜立 様
 謙慎書道会 様
 社団法人 全国学校栄養士協議会 様
 小笠原 繁 様
 山田 泰子 様
 原 桃介 様
 近代書道研究所 様
 佐野 英基 様
 田村 久雄 様
 日本畜産興業株式会社 様
 有限会社 アートオフィスJC 様
 高橋 徹 様
 柴田 陸子 様
 絹村 安代 様
 高橋 良守 様
 臼井 生三 様
 津久井 秀郎 様
 藤倉 光夫 様
 神通 豊 様
 永久 幸範 様
 五十嵐 良和 様
 池田 慶子 様
 株式会社 東京書芸館 様
 青山 千代 様
 藤崎 英喜 様
 (ほか28名3社、順不同)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効
特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート

9月30日まで 一般 3000円 学生 2000円
 10月1日から 一般 4000円 学生 2500円
 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会
 口座番号 00160-6-406616
 *振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号(パンフレット、ウェブサイト参照)を楷書でご記入ください

パスポート

9月30日まで*10月1日以降の口座は廃止
 加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート
 口座番号 00120-3-665737

10月1日から*料金改定に伴い新口座番号に変更
 加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート
 口座番号 00140-1-668060
 *振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください
 *振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
 *振替手数料はお客様の負担となります
 *郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース
 口座番号 00100-2-388101
 *振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
 *振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
 *振替手数料はお客様のご負担となります
 *次号より送付ご希望の場合、締切は11月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30~17:00、4月~12月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、4月~9月の土・日・祝・休日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日~8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金(10月1日から)

一般600(500)円、大学生400(300)円
 *()内は20名以上の団体料金
 *障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
 *満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください
 *2006年10月1日に料金改定が行われます。詳細は本誌11ページをご覧ください。

*講座・講演会、友の会&パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みの際にご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的のみ使用させていただきます。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします



知られていません。「光彩時空」では、これらのすぐれた建築群と庭園、上野の森に囲まれたこの場の特徴を活かし、

◆**光彩時空** 光と音が織りなす華麗な幻想夜景絵巻
 10月31日(火)~11月5日(日)
 17時~21時
 照明デザインの第一人者である石井幹子氏のプロデュースによる光と音のイベント「光彩時空」を開催します。
 東京国立博物館には、表慶館(明治42年・重要文化財)、本館(昭和13年・重要文化財)、法隆寺宝物館(平成11年・谷口吉生設計)など、明治から平成までの各時代を代表するすばらしい建築があり、建築ファンにも人気のスポットとして

◆秋の庭園開放

10月24日(火)~11月30日(木)
 10時~16時

本館北側の庭園を公開します。由緒ある5棟の茶室が点在する庭園で、池の水面に映る楓に大銀杏の燃え立つ黄葉など、秋を感じてみませんか?
 天候により開放中止となる場合もあります。入園無料。ただし当日の入館料は必要です。

◆招待券プレゼント

本誌4・5ページで紹介した特別展「マオリー楽園の神々」「悠久の美

中国国家博物館名品展」の招待券セットを、抽選で10組20名様にプレゼントします。
 ※プレゼントの応募方法はがきに、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、ならびにこの号でいちばん面白かった企画を(記入のうえ、下記ま

◆悠久の美 中国国家博物館名品展 会期変更のお知らせ

東京国立博物館展示・催し物のご案内などに記載の、「特別展 中国国家博物館展」は、都合により会期が変更となりました。2007年1月2日(火)~2月25日(日)の開催となります。

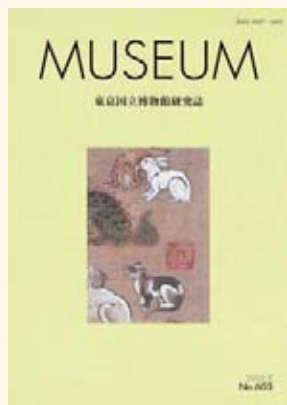
◆留学生の日 11月11日(土)

日本で学ぶ留学生の皆さんを無料でご招待いたします。平常展の観覧が無料。イベントなどもあわせて開催予定です。

◆MUSEUM 603号

(平成18年8月15日発行)の掲載論文

- ①「七尾市・長壽寺蔵(無分印涅槃図)―等伯研究への波及―」松原茂(当館上席研究員)
- ②「朝鮮国王国書に捺された朱印の科学的分析」和田浩(当館環境保存室研究員)
- ③「資料紹介」東寺旧蔵 観音菩薩像 勢至菩薩像 伊東史朗
- ④「新収品紹介」饗養文軒丸瓦 谷豊信(当館列品課長)



◆国立博物館の展示案内

- 〈京都国立博物館〉
 特別展覧会 京焼 みやこの意匠と技 10月17日(火)~11月26日(日)
- 〈奈良国立博物館〉
 特別展 第58回 正倉院展 10月24日(火)~11月12日(日)
- 〈九州国立博物館〉
 開館一周年記念特別展『海の神々』―捧げられた宝物― 10月8日(日)~11月26日(日)

1 SUN	14:00 14:30
2 MON	休館日
3 TUE	仏像 一木にこめられた祈り 列品解説「歴史を語る古文書」14:00 本館特別1室
4 WED	13:00~16:00 14:30 15:30「仏像の表現-制作地域の気候と風俗から-」東洋館エントランス
5 THU	13:00~16:00 14:00 14:30 15:30「ヨーロッパを魅了した伊万里」本館エントランス
6 FRI	夜間開館(20:00まで) 13:00~16:00 15:00 15:30「博物図譜-写生にみる江戸文化のかたち-」本館エントランス
7 SAT	13:00~16:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30「鎌倉時代の浄土教における絵画の役割」本館エントランス
8 SUN	13:00~16:00 14:00 14:30
9 MON	13:00~16:00
10 TUE	休館日
11 WED	13:00~16:00 14:30 14:00
12 THU	13:00~16:00 14:00 14:00 14:30 15:30「ヨーロッパを魅了した伊万里」本館エントランス
13 FRI	夜間開館(20:00まで)連続講座 木彫 第1講・第2講 平成館大講堂 *1 13:00~16:00 14:30 15:00 15:30,18:30「一木彫ができるまで」平成館ガイダンスルーム
14 SAT	連続講座 木彫 第3講・第4講 平成館大講堂 *1 ガラテア・クアルテット 13:00,15:00 本館特別5室 *2 13:00~16:00 14:00 14:30 15:00
15 SUN	連続講座 木彫 第5講 平成館大講堂 *1 家喜美子チェンバロ演奏会 14:00 表慶館 *3 13:00~16:00 12:30,14:00 14:00 14:30 15:30「博物図譜-写生にみる江戸文化のかたち-」本館エントランス
16 MON	休館日
17 TUE	列品解説「歴史資料-旅と街道-」14:00 本館16室 13:00~16:00 西江辰郎&ジュゼッペ・アンダローロ デュオリサイタル 19:00 平成館ラウンジ *3
18 WED	13:00~16:00 14:30
19 THU	東大寺講演会 「聖武天皇に見る仏教政治思想」14:00 平成館大講堂 *4 13:00~16:00 14:00 14:30 15:30「ヨーロッパを魅了した伊万里」本館エントランス
20 FRI	夜間開館(20:00まで) 「仏像」展開連イベント 落語会17:30 平成館大講堂 *5 13:00~16:00
21 SAT	講演会「未来へつなぐ考古学-掘る・守る・伝える-」13:30 平成館大講堂 ゴンチチ・音燈華・コンサート 19:00 本館前特設ステージ *3 13:00~16:00 13:30 14:00 14:30 15:00
22 SUN	ゴンチチ・音燈華・コンサート 19:00 本館前特設ステージ *3 13:00~16:00 14:00 14:00 14:30
23 MON	休館日
24 TUE	秋の庭園開放 列品解説「使命は包括的な保存」14:00 本館特別2室 13:00~16:00
25 WED	見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30 *6 13:00~16:00 14:30 14:00
26 THU	見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30 *6 13:00~16:00 14:00 14:30 15:30「ヨーロッパを魅了した伊万里」本館エントランス
27 FRI	夜間開館(20:00まで) 13:00~16:00 14:30 15:00 15:30,18:30「一木彫ができるまで」平成館ガイダンスルーム
28 SAT	月例講演会「茶の湯釜を楽しむ-茶の湯釜の歴史と鑑賞」13:30 平成館大講堂 13:00~16:00 14:00 14:30 15:00
29 SUN	13:00~16:00 14:00 14:30
30 MON	休館日 芸 三代の継承 能 羽衣 18:00 法隆寺宝物館 *3
31 TUE	光彩時空 夜間開館(20:00まで) 表慶館改修記念 保多由子メゾ・ソプラノコンサート 16:30,19:00 表慶館 *3 列品解説「紙の情報を未来へ伝える」14:00 本館特別2室 13:00~16:00

1 WED	夜間開館(20:00まで) 13:00~16:00 14:30
2 THU	夜間開館(20:00まで) 13:00~16:00 14:00 14:30 15:30「ヨーロッパを魅了した伊万里」本館エントランス
3 FRI	夜間開館(20:00まで) 心花~kokohana~時空を超えた“絃” の響き 18:30 表慶館 *3 13:00~16:00
4 SAT	夜間開館(20:00まで) 河村典子ヴァイオリンひとり表慶館 11:00 表慶館 *3 秋もはじめにきよし 16:30 表慶館 *3 13:00~16:00 13:30 14:00 14:30 15:00
5 SUN	夜間開館(20:00まで) アカペラで聴く 唱歌・童謡の世界 14:00,18:00 表慶館 *3 13:00~16:00 14:00 14:30
6 MON	休館日
7 TUE	列品解説「光と展示・保存・調査」14:00 本館特別2室
8 WED	14:30 14:00
9 THU	14:00 14:00 14:30
10 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00 15:30,18:30「一木彫ができるまで」平成館ガイダンスルーム
11 SAT	留学生の日 14:00 14:30 15:00
12 SUN	14:00 14:30
13 MON	休館日
14 TUE	列品解説「金属器の修理と復元」14:00 本館特別2室
15 WED	14:30
16 THU	14:00 14:30
17 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
18 SAT	月例講演会「ポール・ルヌアールと林忠正」13:30 平成館大講堂 天満敦子無伴奏 ヴァイオリンコンサート 19:00 平成館ラウンジ *3 13:30 14:00 14:30 15:00
19 SUN	12:30,14:00 14:00 14:30
20 MON	休館日
21 TUE	台東区の伝統工芸職人展 列品解説「展示と保存修理」14:00 平成館企画展示室
22 WED	14:30 14:00
23 THU	14:00 14:30
24 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00 15:30,18:30「一木彫ができるまで」平成館ガイダンスルーム
25 SAT	14:00 14:30 15:00
26 SUN	14:00 14:00 14:30
27 MON	休館日
28 TUE	列品解説「環境保存と湿度」14:00 本館特別2室
29 WED	14:30
30 THU	14:00 14:30

12/3まで
 ① = 東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク
 ② = ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所: 本館1階エントランス
 (先着25名様、開始1時間前に本館1階で整理券配布、庭園開放時のツアーは簡略版で実施)
 ③ = ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所: 本館1階エントランス
 ④ = 特集陳列「古文書-歴史を語るメッセージ-」(本館特別1室)のギャラリートーク、
 13:00-16:00の間、来場したお客様のご希望により説明をします。
 *1は事前申込制(申し込みは締め切りました) *2は無料、*3は有料イベントです(本誌14ページをご覧ください)
 *4は事前申込制、詳細は当館ウェブサイトをご覧ください *5詳細は本誌3ページをご覧ください
 *6は事前申込制、詳細は本誌6ページをご覧ください
 *上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
 *屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。